

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会  
第11回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和6年11月25日（月）15：00～17：00

場所：Fujitsu Uvance Kawasaki Tower

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアディレクター

幹事 川崎商工会議所 向田担当部長

株式会社チッタ エンタテインメント 若井課長

川崎市PTA連絡協議会 浦山会長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

一般社団法人川崎市観光協会 北嶋主任

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 鈴木氏

富士通株式会社 池田シニアマネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

## 1 開会

## 2 報告

報告第1号：秋の4大イベント「川崎愛 遊びつくす 3日間」広報実績

報告第2号：Colors, Future! Summit 2024の開催結果について

報告第3号：みんなの川崎祭(R6)実施結果報告について

報告第4号：音楽プロジェクトの実施結果について

—事務局より資料1～4を用いて説明

**大西幹事**：みんなの川崎祭について、昨年度は3車線で4万人来場とのことですが、今年度の目標はどれくらいでしたか？

**事務局・長瀬係長**：昨年以上という目標です。

**大西幹事**：6車線で面積が倍になり、思った以上の人に来て、結果は良かったと思います。

**事務局・長瀬係長**：天気が晴れたのと、広報も効いたのか、これだけの人来ていただいたのは良かったかなと思います。

**大西幹事**：トラブルとかはなかったですか。

**事務局・長瀬係長**：はい、大きなものはなくて、特に怪我などありませんでした。交通についても、駅前に少し渋滞がありましたが、混乱するようなほどではなかったという状況です。

**浦山幹事**：みんなの川崎祭はまだ継続されていくと思うのですが、このような川崎全体で魅了するようなお祭りとか、イベントというのはあまりないと思います。各神社とか町内ごととかはありますが。継続していけるよう、よろしくお願ひしたいなと思います。

**内藤幹事**：すごい人ですね。当日はColors, Future! Summitのほうにいたので、みんなの川崎祭には行けなかったのですが、11万人の参加者で相当な数だということと、前日（2日）は確か雨が降って、Colors, Future! Summit でもイベントが中止になったその翌日、11月3日の日に、晴れてよかったなというふうに思います。ぜひ、市民の方がこうやって集って、いいなと思われるイベントを「川崎らしい」、100周年だけで終わらせるのではなくて、要はその先も名物イベントみたいな形で、11月の3連休あたりは「川崎でお祭りしているのだよね」というのが続けばいいなと考えています。

**中山幹事**：当日は路線バスとかも全部止めて、路線バスのルートを変更したと思いますが、市民の方から問い合わせはありましたか？

**事務局・長瀬係長**：仕事で車に乗っていて、少し渋滞しており、約束の時間に遅れてしまったという問い合わせはありましたが、1、2件程度でした。路線バスもの経路も変更したんですが、それに関する件はありませんでした。

**中山幹事**：実は当日ちょっと覗いてみたのですが、すごい熱気で、これが川崎の名物になるんじゃないかなという気がしました。例えば50年後、100年後の次の事務局に、かなりプレッシャーを与えたイベントだと思うのですが、あたらしい川崎のお祭りとか、伝統みたいな、そのような位置づけで続けていけるとすごくいいなと思いました。本当に警察とかの調整は大変だったと思うのですが、お疲れ様でした。

**向田幹事**：私も当日拝見して、いろんなコンテンツがあり、すごく楽しいなと思いました。子どもたちもかなりの人数いらっしゃいましたが、バスもそうですけど、元々ある商店街とか、その通りにある飲食店とか、クレームはなかったですか？キッチンカーとか出ていて、結構大行列だったような記憶があるのですが、その分お客さん取られたというような。飲食店は横に並んでいて、ちょっと見たら寂しそうな時もあったので、問題にならなかったか聞きたいです。

**事務局・長瀬係長**：特段クレームみたいなものは私どものところにきておりません。事前説

明もして、一緒に賑わいを増やしてほしい思いもあって説明もしており、その結果、第3庁舎の横の東田商店街というところが、同じタイミングでお祭りをやっていて、今後どちらかという、この時に便乗して一緒にやってくれると嬉しいなと思います。

**向田幹事**：むしろ周りも、一緒に合わせてお祭りになると、より広がりますよね。ありがとうございます。

**浅岡幹事長**：来年以降の日程なのですが、やっぱり今年同様11月の3連休ですか。

**事務局・長瀬係長**：そうですね。まだ決定ではありませんけれども、季節的には暑くもなく寒くもなく、そして晴れやすい時期と思っています。また、昨年度は市民祭りと一緒にやりましたけれども、そういったところの相乗効果もあるのかなと思っていますので、基本は同じタイミングを軸に検討していきたいと思います。

**浅岡幹事長**：まさにその市民祭りと一緒にやったほうがいいのかなと思ったので、今年は緑化フェアがやっていたのでできなかったですが。

**事務局・長瀬係長**：そうですね。市民祭りがずれてしまいましたが、その方向も今後検討していきます。

**浅岡幹事長**：はい、ありがとうございます。

**小池事務局長**：今回11万人と書いているのが、このColors, Future! Summitと、みんなの川崎祭の合計でございます。4大イベントの連携ということで、チッタさんが頑張ってくださった夜市とも連携させていただきました。夜市の人数も入れると、もう11万人どころではなく、もっと増えると思います。色々連携させていただいて、ご迷惑をかけたところもあるかと思いますが、何か感想ございますか。

**若井幹事**：みんなの川崎祭を見に行くと、すごくいい雰囲気だなと思いました。銀柳街と銀座街の間にバスケットコートが出てとか、すごいなと思って、どこかで真似させてほしいなとか思いながら行ったのですけれども、とてもいい雰囲気で、ファミリー向けのいいコンテンツになったじゃないかなというふうに思いました。

**小池事務局長**：夜市さんとの連携はどんな感じでしたか？

**若井幹事**：夜市のほうも、ウェブの流入を見ると、川崎市のHPからの流入が上位の2番目か3番目ぐらいに入っていて、23万PVぐらいの流入があったようですので、夜市としても連携がうまくいったのではないかなというふうに思っています。

**報告第5号：脱炭素プロジェクトの実施結果について**

**報告第6号：まんなかフェス2024の開催結果について**

**報告第7号：子どもの力で川崎の未来を変えるプロジェクトについて**

—事務局より資料5～7を用いて説明

**内藤幹事**：まんなかフェスについてですが、せっかく9月のしんゆりマルシェで「ワークショップをする」と企画をしていただいたのですが、初日は予報で風が強く、日曜日は雨の予報だったので、もう木曜日ぐらいの時点で中止とさせてもらいました。せっかく企画をしていただいたのに、すいませんでした。でもまんなかフェスは盛況に開かれて、当日の様子が写真で見られてよかったです。もし来年以降で連携できるのであれば、ぜひ懲りずに利用していただくと幸いです。

**向田幹事**：子どもの力で川崎の未来を変えるプロジェクトについて、ミニたまゆりの参加者は川崎市内の子どもたちが多かったでしょうか？

**事務局・浜松係長**：市内の方もそれなりに来られたと思います。アンケートで230サンプルぐらい受けていまして分析中ですが、どちらからいらっしやったかという属性は、アンケート結果を見ようと思います。市外の方も一定いらっしやる感じでした。

**向田幹事**：この先も考えたら、市内でどんどん継続的にやっていただければいいのかなと思います。

**事務局・浜松係長**：そうですね。アンケートの中では、「またぜひ来年も来たい」というような回答をされる方も結構多くいらっしやいました。アンケートでもう少し分析してみたいと思っています。

**浦山幹事**：「みんなの川崎祭」という大きなイベントがあって、今回の100周年を記念しての提案型ということだと思うのですが、いい取組がたくさんあるので、連携をどうするのかですね。それから、特にまんなかフェスのような、1つのお祭りだったり、パレードだったり、後ろに文化的や宗教的な背景があったりすることが多いですね。川崎としてこういったことを継続していくためには、文化的な背景のような地軸みたいなものを据えていかないとなかなか続かないのではないかと思います。お祭りやパレードと川崎らしい価値観をちゃんと組み立てて、全体としてやっていくようなことも必要なんじゃないかなと思います。

**中山幹事**：今ご紹介いただいたものについては、今回は基本的に実行委員会が色々絡んで進めていただいたのですが、来年以降はそれがなくなる状況になると思うのです。ぜひ今年度も踏まえて展開していただければいいと思うのですが、その時に、例えばどこかのタイミングで、100周年の実行委員会の参加企業とか、団体とかにも広く声をかけて、新しい仲間とかも募っていったらいいかと思いますので、ぜひそういった方向で発展させていけると100周年のレガシーになるのかなと思います。

**事務局・浜松係長**：そうですね。ミニたまゆりの仕事体験は、今回5団体の参画団体にお声がけして新たに参加いただいたのもあるので、そういう方のご縁が今後も続き、より広がっていけばいいかなと思います。

**中山幹事**：せっかくいろんな業種とかの団体がくっついた100周年の1年間なので、ぜひそういったネットワークをうまく活かして発展させていただけるといいかと思います。

**小池事務局長**：はい。後ほど議案の中でも今後の進め方みたいなところを出させていただきますが、400団体近い団体の皆様と一緒にやらせていただいているというところがございますので、その繋がりでも色々なところの声かけができるというところもございますので、そこはすごく大事にしていきたいなというふうに我々も思っております。来年度以降もそれを引き継いでいけるように工夫して色々進めていきたいなと思っております。

**報告第8号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について**

**報告第9号：広報の取組について**

**報告第10号：市制100周年事業記録誌の制作について**

**報告第11号：協賛状況について**

**報告第12号：実行委員会第5回総会・交流会の開催結果及び第6回総会の開催について**

—事務局より資料8～12を用いて説明

(意見なし)

### 3 議事

**議案第1号：(仮称)市制100周年の取組を未来へつなぐイベント**

—事務局より資料13を用いて説明

**浅岡幹事長**：そもそもは予定してなかったイベントですか。

**事務局・長瀬係長**：年度当初の時点には予定しておりません。前回お話をさせていただいた通り、途中から検討を始めております。

**浅岡幹事長**：いわゆる予算があったということですか。

**事務局・長瀬係長**：そうですね。協賛金が集まらなかった時のために事業予算の一部を取っておきますという話も序盤ではさせていただきましたが、協賛金の目標額を達成する見込みが立ったため、年度末に何かということ企画いたしました。

**浅岡幹事長**：まさにフィナーレというのはいいと思いますけど、後にどう繋げていくかですよ。単なるイベントだけではなくて、仕掛けをどうするのかというところかなと思うんですけど、それについて何かご意見がある方はございますか。

**浦山幹事**：イベントであること自体はいいと思いますが、本当に次の100年まで繋げるという仕組みはとても大切だと思います。今回の川崎の市制100周年で集まった川崎の総合力と言いますか、先端技術から、北の方は里山まで、細くて長い川崎の特徴を活かしてきて、今は多様な人がいるというのがとても良かったと思っています。私はPTAの関係者なので、教育の中で何かできないかと思っています。例えば、今、令和8年度からの新しい教育プラン、みんなの教育プランということで、教育委員会で作ろうとしています。その「みんなの」というのは、普通は教育関係者だったり、子どもだったり、先生だったりするわけですが、「川崎のみんな」はそこだけでないというのが非常にこの100周年が持っている目線だと思います。教育関係の会議に出ている、集まってくる人は大体教育関係者になってしまい価値観が偏ってしまいますが、川崎はいろんなことがミックスアップされて相乗効果が生まれるような、川崎の未来をかけるように子どもたちが育っていくようなメカニズムを用意していかないと、繋がっていかないとと思いますのでご検討ください。

**事務局・長瀬係長**：この後の議題で、レガシーを残す時のお話をさせていただき予定でございまして、こちらはどちらかというと単発のイベントにはなってしまいますが、このイベントでも教育の重要性も認識しながら進めていきたいと思っています。

**中山幹事**：100周年の1年間、最後に締めくくるイベントをやるのは確かに意味のあることだと思いますし、ターゲットが子どもたちというのもいいと思います。ただ、その子どもたちが、例えば150周年で、おそらく動いてくる人達だと思うので、ずっと記憶に残るようなイベントとか、それによって川崎市をますます好きになってもらうイベントにしていかないと、「楽しかったね」で終わってしまうのはもったいないと思います。何をやるべきかというアイデアはないですが、子どもたちの心に刺さるようなイベントにしたいと思いました。

**事務局・長瀬係長**：ありがとうございます。ただ「楽しかった」となるだけのイベントにしてはもったいないと思っております。

**中山幹事**：川崎ってすごいなとか、すごいところに住んでいるなとか、子どもたちが次の川崎を担っていくことになるので、川崎がより好きになるような、心に刺さるようなイベントにしたいですね。

**事務局・長瀬係長**：そうですね。川崎を好きになってもらうというところもそうですし、一緒になって未来を作っていくみたいなメッセージ性を持たせて、伝えられるような工夫をしたいと考えております。

**内藤幹事**：繋がるかどうかわかりませんが、市制60年というかなり昔のインタビュー等の映像記録があって、11月23日に麻生区誕生の60年を記録でまとめたものをイオンシネマで、無料で200名、2回放映しました。これは年配の方の参加者が多かったかもしれませんが。要は、子どもたちが将来振り返って、「100周年こんなことやったよね」、もしくは昔の川崎に比

べて「100年たってこういうことになっているよね」という話ができるようなことをしたい。将来、振り返りの映像をブースで流したり、映画館で連携して放映したりできるような、記念誌という紙で残すよりも、映像で残して、それを映し出すことによって今を感じてもらえたらと思います。将来に繋がるような記録を残しながらフィナーレという企画できたらいいなと勝手に思いました。麻生区がやった取り組みもかなり有効だったなと思います。日本映画大学さんと麻生区さんが作った映像、ぜひ機会があれば見ていただきたいです。そういうDVDは麻生区さんがお持ちになられているので、ぜひ参考に作っていただいて、川崎版があればいいなと思いました。

**事務局・長瀬係長**：100周年の展示みたいなものもしたいなと考えていて、単に物を入れるだけでは来てもらえないと思うので、画像とか動画の活用も検討いたします。

**事務局・金井課長**：記録映像については、実行委員会主催事業を中心に、広報の委託をしている事業者が毎回ビデオ撮影に来て、それを年度末までにまとめる作業をしています。3月29日、30日なので、使えるかはわかりませんが、記録は映像という形で残します。

**内藤幹事**：せっかくイベントをやられるので、この1年もしくは2年で「こういうことやったのですよ」というものを流して、皆さんに見てもらって広げたらどうでしょうか。

**事務局・金井課長**：（映像を）撮る作業はしているので、検討していきます。

**浅岡幹事長**：はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

**大西幹事**：市制100周年記念事業は、Colors, Future! Actionsということで多様性のある、様々な市民の方を許容するまちであって、広く皆さんにまちに愛着を持ってもらいたいという方向性ですので、例えばまちとの関わり等の中で昔の話が出てきたり、未来の話と昔の話が混在するようなストーリーのイベントになったりすると、さらに面白いなと思いました。これから企画を進めていかれると思うので、ぜひ検討いただきたいと思っています。また、これまでの市制100周年のイベントの中で課題になっているような集客、PRの部分は、どういうふうにしていくのかということが非常に重要だと思いますので、効果的なPRの仕方、集客の仕方をご検討いただきたいです。最後に、緑化フェアとの連携をしながらということですが、今回のイベントの音響PAについては、緑化フェアのステージ周りのものに加えて、費用が別でかかるのでしょうか？

**事務局・長瀬係長**：ありがとうございます。1つ目の過去から未来へ～という流れについては、先ほどの内藤さんのご意見と近いところもあると思います。きちんと組み立てられてはいませんが、以前過去の写真をカラー化するなどを行っていますので、そういった過去を感じられるものもあれば、当日一緒に来たおじいちゃん、おばあちゃん世代も楽しいとか、そういう工夫もできるかなと思います。2つ目のPR、広報についても集客につながるよう検討していきます。3点目の音響PAについては緑化フェアとは別で計上していますが、フェアと連携しな

がら、既存のものは有効活用させていただきたいと思っています。

**浅岡幹事長**：大体よろしいですか。そうしましたら、出たご意見を参考にさせていただいて、今後進めていただければと思いますので、それでご承認ということでよろしいですか。  
(意見なし)

## 議案第2号：川崎市市制100周年記念事業のレガシーについて(骨子素案)

—事務局より資料14を用いて説明

**浅岡幹事長**：非常に多岐にわたるお話ですが、要は何を残すかという選択を考える上での判断基準というのが骨子なのかなと思います。来年以降そんなにお金が集まるのか、現実的に考えていく必要があると思いますが、いかがですか。ご意見はありますか。

**小池事務局長**：少し補足します。繋がりを大事にしたいというところで、今回、400団体の皆様に参入していただいて実行委員会を作りましたが、実行委員会自体をそのまま来年も継続していくというのがやはりその趣旨から難しいかなというのがあって、やはり解散はしなければいけないのかなというところではあります。ただ、このまま解散ではなく、なんとかして皆さんとの繋がりは残していきたいと考えています。

**若井幹事**：組織としてどう残し、何をやっていくかのレガシーになっていると思いますが、旗印みたいなものが1つ掲げられるとすごくいいのかなと思いました。今回やった100周年の関わった皆さんの中で、例えば「なんとか都市川崎」のような宣言をしていて、今生きている川崎市民が、100年後に生きているだろう川崎市民のために何か約束するというような、それは川崎市民が持続可能な形で幸せなライフスタイルを送れるとか、みんなの幸せのために我々はいろいろしますというような、そんな宣言を今2024年に生きている我々が考えました、それを達成するために、こういった組織みたいなものを残していきますというような宣言があると、みんながやったレガシーが残り、将来「こういう文章をその時考えたのですよ」とか、「こういう約束をしたのですよ」と言えると、とても素敵なストーリーができると思いました。

**浅岡幹事長**：あとは、川崎市のおおもとの概念との整合性もあります。企業で言うと、経営理念のような、何を目指し、存在意義としていくか、それも合わせてご検討いただくというような方向でいかがでしょうか。

**森幹事**：皆さんもご発言の通り、ここまで結びついたものが2025年以降なくなることは非常に寂しくもったいないことであり、今後は「プラットフォーム」というのがとても大事になるだろうと思います。残念ながら、2025年以降は2024年と比較して人とお金(予算)が集めにくくなるわけですが、いかに繋がっていることを見えるようにしておくのかということがとても大事になるのではないかと考えています。これまでは市制100周年ということで、すべてが凝縮し、ターゲットに繋がっていきこうということが自発的にやりやすかったですが、こ



の先、この求心力を失うことが非常にもったいないと感じます。2025年以降はおそらく主体が民間に移ると思いますが、その取り組む主体者が川崎との繋がりを意識し、自分たちの取り組みが川崎の将来に繋がるということをどう表現するか、工夫するかということがこれまで以上に求められると思います。少なくとも、例えば川崎市のホームページを覗いた時には、必ずそこにコンテンツが繋がっているということは今後も継続したほうがよいのではないかと思います。

**浦山幹事**：方法論になってしまいますが、継続というのはどのぐらいのスパンでいくのがすごく大事だと思います。次の100年はここにいる人は誰も生きていない中では、子どもの世代に繋がっていくことが必要で、根っこは教育だと思うのです。川崎市の場合は、小中高という統一校が存在する珍しい自治体で、一貫して教育できる可能性があるのですよね。10年ごとに教育プランを見直していくので、その中にレガシーを据えていって、例えば総合で、すでに町探検とか子どもたちもいろいろなことを勉強していますが、その中にテーマとして入れていくというのは方法論として考えていただけたらと思います。継続というのは、日々繰り返される継続と、必要な時に出てくる継続があると思います。例えば、みんなの川崎祭っていうのは、1年に1回ずつ現れ、その時にいろんな気持ちが繰り返されます。ゴミ収集車の音楽はみんな好きだと思うのですが、日々繰り返される継続の形ですし、いろんな残し方があると思うのです。プラットフォームで具体的な結びつきという形のこともあるし、コンセプトのお話も先ほど出しましたけども、そういったことを一緒に考えるのがいいのではないかと思います。

**浅岡幹事長**：はい、ありがとうございます。

**松本副幹事長**：繋がりを維持するうえで、新しいプラットフォームを立ち上げるのもいいのではないかなとも思いました。

**浅岡幹事長**：よろしいでしょうか。それでは、事務局側は皆さんから出た意見を参考に骨子を詰めていただいて、年明けの幹事会にまたご提出していただくということでよろしいでしょうか。それでは、議案の方は以上となります。

#### 4 閉会

以上